



～ 新年賀詞交歓会が盛況裡に開催された ～

恒例の新年賀詞交歓会は、1月15日に開催され111人の会員の参加を得て大いに賑わいました。令和の御代、2020年代の新たなスタートを展望した井嶋会長のご挨拶(要旨は以下の通りです)、中田副会長ご発声による乾杯で宴が始まり、様々な話題で盛り上がりました。妹尾副会長の中締めのご挨拶まで名残は尽きないようでした。また、今回は初めての試みとして、この間ロビーで、立礼茶会の提供がありました。お正月らしいイベントで多くの会員が喜んでお茶を頂戴しました。2月に発足する予定の「茶の湯同好会」のご好意によるものでした(本誌10ページをご参照ください。)



井嶋一友会長より
新年のご挨拶



皆様、新年明けましておめでとうございます。今年は、令和の御世の最初のお正月であり、西暦2020年代の幕開けの年でもありまして、言わば一つの時代を画する年の始まりであります。特に、今年は、56年ぶりに東京オリンピック・パラリンピックが開催される重要な年でもあり、新時代の幕開けに相応しい明るい希望に満ちた年にしなければならないものと考えます。このような記念すべき年の始めに日本倶楽部の会員の皆様とともに元気で新年をお祝いする機会を得ましたことは米寿の私にとってこの上ない喜びであります。

ところで、わが日本倶楽部は、平成時代の最後の数年間をかけて、クラブライフを一層活性化して会員相互の親睦の強化を図るとともに、新入会員の特段の増強を図るべく、会員一丸となって努力しました結果、皆様お気づきの通り、最近、会員懇親会などの諸行事を始め、各種クラブ活動全般の充実、活性化が一段と進みました。また、会員の入会数もやっと増加する傾向に転じ、会員数の減少に何とか歯止めを掛けることが出来ました結果、このところ数年は総会員数510人台で推移している現状であります。

私は時代を画する新しい年の始めに当たり、「クラブライフの活性化と会員増強」の二本柱をなお一層推進し、2025年から始まる超高齢化時代の到来に備えて、歴史と伝統を維持しつつ日本倶楽部の一層の充実、発展を図らねばならないものと考えております。会員の皆様の一層のご理解とご協力をお願いする次第であります。

執行部といたしましては、この二本柱を更に推し進めるために、昨年11月、新たに「フェロウシップ委員会」を立ち上げ、若い会員の方々を委員として、既存の行事や部会活動への参加を促進する方策、クラブ活動の相互の連携強化を図る方策、同好会や研究会など新たな活動の場を立ち上げる方策等の策定を進めていただくなど、会員相互の交流、親睦の一層の充実に目的として活躍していただくことといたしました。本日は、その成果として、この春の発足を計画しておられる「茶の湯同好会」の皆様が、賀詞交歓会に合わせて当館ロビーでお手前を披露し、干菓子と薄茶を振る舞われることになっておりますので、このパーティーとともにお茶席も楽しんでいただき、時間の許す限りご歓談を賜りたいと思います。以上をもって私の年頭のご挨拶といたします。有難うございました。

